

## 【高みへの挑戦（陸上女子ハンマー投げ・硬式野球部）】

令和5年9月7日

今年の夏は史上最高と言われるほどの猛暑に見舞われました。そんな中、運動部・文化部それぞれ一生懸命活動していました。その中で陸上競技部1年生の木村こはるさん（C1A）は、8月24日（木）に行われた「第75回兵庫県高等学校ユース陸上競技対校選手権大会」において、女子1年ハンマー投げで24m02を記録し、見事3位に入り、9月15日（金）に「第56回近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会」に出場することになりました。始業式の日、練習後に報告のために来室してくれました。そこでは、日頃の練習や、近畿大会への意気込みなどについて話してくれました。

木村さん：「中学校での種目は円盤投げと砲丸投げで、ハンマー投げは高校に入ってから練習を始めました。ハンマー投げで難しいところは投げる角度で、何回も投げて克服しました。また、ターンしながら投げるのですが、少しずつできるようになり、今は2回ターンして投げています。柔道をやっていたおかげでパワーはあります。週に5日楽しく練習できていて、近畿大会での目標は30mです。レベルの高い選手から学んで帰ってきたいです。」

初めての競技へのチャレンジ精神と地道な練習や探究心が成長へ繋がったのだと思います。どんな競技にも言えることですが、勝ち負けだけがすべてではなく、大切なのは、自分のベストを目指して限界に挑戦することです。そして、その過程で成長し、自己を超えることができるのだと思います。大きな大会で緊張するかも知れませんが自信を持って臨んで欲しいですね。どんな記録を出せるか楽しみです。



続いて硬式野球部の県大会出場についてです。硬式野球部は夏休み中に行われた「令和5年度秋季地区大会」において、播磨地区Bブロックを勝ち抜いて代表となり、9月9日に開幕する秋季県大会出場を決めました。大会を前に、主将の中村 亮介君（C2A）とエースピッチャーの清水 梧斗（あおと）君（M2A）の2人に県大会への意気込みや部活動を通して学んだことを聞きました。

中村君：「県大会では、自分たちは「チャレンジャー」ということを忘れずにプレーしていきたい。野球部では楽しむことの大切さを学びました。辛いときやしんどい時、限界がきた時に楽しむと成長できるということを知りました。」

～1回戦の西脇工業高校戦では3点ビハインドの8回裏に4点を取って見事な逆転勝ちでした。相手は甲子園出場経験もある強豪校ですが、臆することなく向かっていく雰囲気が伝わってきました。チャレンジ精神と最後まで楽しみながら諦めない姿勢が勝利を導いたに違いありません～



清水君：「県大会では、目の前の相手をしっかり倒して1勝でも多く勝てるように強気で頑張ります。野球部ではチームワークや協力が重要だということを学びました。また、挑戦することや失敗を経験することから挫折に対する耐性や粘り強さも養われました。」

～代表決定戦では同じ淡路の強豪津名高校に、粘り強く同点で迎えた9回に劇的なサヨナラ勝ちを収めました。清水君は二刀流の活躍で、完投したうえで先制タイムリーヒットとサヨナラヒットを打ちました。投打に粘りと強気が感じられます～

今回は2人に話を聞きましたが、野球は一人ではできないのでチーム全員の勝利であることは言うまでもありません。2人の話の中に、「辛さやしんどさ」「限界」「失敗や挫折」といった逆境もありましたが、「チームワーク」や「楽しむこと」で克服していることが分かりました。県大会ではのびのびと試合に臨んで思う存分力を発揮して欲しいと思います。